



2012年6月20日発行

スポーツ史学会事務局

〒630-8528 奈良市高畑町

奈良教育大学 保健体育講座 井上研究室内

TEL & FAX : 0742-27-9230(直通)

E-mail : kinoue@nara-edu.ac.jp

<http://sportshistory.sakura.ne.jp/>

※ URLが新しくなっております。

I. 事務局報告

1. 会況報告(2012年5月21日現在)

- ・ 会員総数210名(機関)
(正会員185名、学生会員25名、賛助会員 1機関)
- ・ 会費納入状況
 - 2012(平成24)年度納入者数 66名
 - 2011(平成23)年度未納者数 41名
 - 2010(平成22)年度未納者数 13名(1機関)
 - 2009(平成21)年度未納者数 3名(1機関)
- ・ 会費収入総額 664,000円

2. 会費納入のお願い

今年度(正会員8,000円、学生会員5,000円)の納入はお済みでしょうか。別紙「選挙人・被選挙人予定者名簿について」の下欄で6月9日現在の会費納入状況をお知らせしております。会則第9条により、3年間会費未納の会員は会員資格を失うことになります。

また、今年度は役員改選選挙が行われますが、平成23年度までの会費を滞納されている場合には選挙権および被選挙権を失いますので、ご注意ください。

なお、会費納入状況等について疑問がおありの場合には、ご面倒ですが事務局までお問い合わせください。

郵便振替口座 : 00940-7-282457

加入者名 : スポーツ史学会

3. 日本学術会議刊行物

月刊『学術の動向』2012年3月～2012年5月号が事務局に届いております。目次のコピーを同封いたします

ので、関心をお持ちの方はご連絡ください。なお、特集記事は<http://www.sci.go.jp>からも閲覧可能です。

II. 理事会報告

1. 第115回理事会

第115回理事会がつぎのとおり開催されました。

期日:6月9日(土) 14時00分～17時00分

場所:大阪学院大学5号館B2-02会議室

出席者:理事 松本芳明(理事長)、井上邦子、大川信行、菅井京子、竹谷和之、松浪稔、鶴木千加子(第26回学会大会担当理事)、瀧元誠樹(旧事務局)

欠席者:藤井英嘉会長、理事 松尾順一、三井悦子

1. 議事録確認

- 1) 第114回理事会議事録の確認について
- 2) メール審議の結果について

2. 報告事項

- 1) 『スポーツ史研究』第26号の編集進捗状況について
- 2) 「ひすぼ」第82号の編集進捗状況について
- 3) 会況報告
- 4) 「第四種郵便(学術刊行物)」の登録内容について
- 5) その他

所属変更について、国際セミナーについて

3. 審議事項

- 1) 学会賞・奨励賞の選考について
- 2) 役員改選選挙について

3)スポーツ史学会第26回大会開催要項(案)について

4)会員の入会・退会について

5)『ひすぼ』83号の特集テーマについて

6)『スポーツ史研究』投稿規定、『スポーツ史研究』
執筆要領の改正について

Ⅲ. 編集委員会報告

1. 『スポーツ史研究』第26号の編集進捗状況

・6月9日に第1回編集委員会を開催し、『スポーツ史研究』第26号の編集について協議しました。5月31日まで
に原著論文5編、シンポジウム再録の1編があり、現在審査
中です。

2. 『スポーツ史研究』へのご投稿

『スポーツ史研究』への投稿は随時受け付けております
ので、下記の投稿先までお送り下さい。

〒651-2187 神戸市西区学園東町9-1
神戸市外国語大学 竹谷研究室内
スポーツ史研究編集委員長 竹谷和之
Tel:078-794-8221

Ⅳ. 会報「ひすぼ」報告

1. 「ひすぼ」第83号の原稿募集について

次号「ひすぼ」第83号の特集テーマは「ロンドンオリン
ピック・パラリンピック」となりました。締め切りは平成24
(2012)年9月末日です。多くのご投稿をお待ちしてお
ります。

なお、「ひすぼ」の内容は特集テーマ以外にも、論壇、
自由テーマ、図書紹介、スポーツ博物館めぐり、内外の
学会・研究会情報などがあります。電子メールでの投稿も
可能ですので(事務局宛)、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 「ひすぼ」特集テーマの募集について

現在、第84号以降の特集テーマを募集しておりますの
で、事務局までお寄せください。皆様からの積極的なご

提案をお待ちしております。

V. 会員の動向

1. 入会・退会

1)次の方の平成24(2012)年4月1日付での入会が承
認されました。

学生会員:阪本佳郎、石原豊一

正会員:坂中勇亮、松丸将、金炫勇、坂元正樹

2)次の方の平成23年(2012)年度末付けでの退会が
承認されました。

小田切毅一、田中暢子、中間茂治、中浦皓至(ご逝去)

2. 所属変更について

次の方の所属が変更になりますので、ご案内いた
します。

田代正之(太田市立旭中学校)

名久井孝義(無所属)

※ 所属、連絡先住所等に変更があった場合には、必
ず新事務局までご一報ください。その際、ぜひと
もメールアドレスをあわせてお知らせ下さい。

Ⅵ. 「神戸市外国語大学・バスク大学 第2回国 際セミナー」への参加について

表記セミナーが、2012年8月6日(月)～9日(木)の4日
間、神戸市外国語大学で開催されます。参加ご希望の方
は、下記へ必要事項を記入してお申し込みください。
先着20名まで参加可能です。参加費は無料です。

1. 必要事項：氏名、住所、電話番号

2. 送付先：神戸市外国語大学研究所グループ

vasco@office.kobe-cufs.ac.jp

学術の動向 3

2012

CONTENTS

Vol.17 No.3 ISSN 1342-3363

特集1 福島原子力事故

- 7 特集の趣旨 矢川元基
- 8 福島原子力事故に直面して 矢川元基
- 11 リスク学から見た想定問題 木下雷雄
- 18 航空運航の安全から原子力発電所の安全を考える 垣本由紀子
- 24 福島原子力事故の対応と原子力安全の再構築へ向けて
成合英樹
- 28 東京電力福島第一原子力発電所の事故の概要 澤田 隆
- 32 事故の教訓を生かす—原子力発電所の安全性の確認と強化— 井上孝太郎
- 36 東北地方太平洋沖地震を踏まえた原子力発電所の
耐震・耐津波指針 入倉孝次郎
- 41 機械工学からの反省と貢献 白鳥正樹
- 48 詳細汚染マップの作成と放射線リテラシー 柴田徳思
- 53 福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の
環境放出と除染及び原子炉廃止措置 田中 知
- 57 福島第一原子力発電所の事故調査のあり方 松岡 猛

■学術からの発信

- 84 エリア・スタディーズの将来
—ユーロ危機をケース・スタディーとして— 久保広正

■東日本大震災に関する日本学術会議の対応

- 87 シンポジウム等の開催実績 (2011年3月~2012年2月)
- 92 日本学術会議が発出した提言等一覧
- 93 第22期日本学術会議の対応 (検討体制)

特集2 グローバル化時代における 法と教育

- 63 特集の趣旨 櫻田嘉章
- 64 国際関係法の立場から国内法教育に求めるもの
—国際公秩序とのリンケージ— 小森光夫
- 68 グローバル化と環境法 松井芳郎
- 70 グローバル私法の勧め 櫻田嘉章
- 74 外国人人材の育成及び法整備支援—九州大学の取り組み— 吾郷眞一
- 76 刑事法教育におけるグローバル化への対応
松宮孝明・新倉 修・高山佳奈子
- 80 グローバル化と弁護士業務
—日本法の知識・経験を国際的法律業務に役立てる— 片山 達

学術の周辺

- 3 表紙の原
村上陽一郎/矢川元基

編集委員会から

- 35 特集テーマ予告
- 83 次号予告
- 98 編集後記

日本学術協力財団コーナー

- 62 賛助会員募集のご案内

日本学術会議の動き

- 96 幹事会報告
- 97 情報プラザ

特集1 福島原子力事故、 シミュレーションおよびその発信

- 7 特集の趣旨 矢川元基・高橋桂子
8 予測科学の進展と情報展開 山形俊男
14 大気拡散シミュレーションの利用にむけて 鈴木 靖
21 原子力安全確保とシミュレーション —役割と限界— 松浦祥次郎
28 科学と政府をつなぐ —政策形成における科学と政府の役割と責任— 有本建男
38 科学の「予言する力」 柴田文隆
46 本特集から得られるもの 萩原一郎

特集2 社会サービスのユニバーサル・ デザイン —医療・介護・住居の新たな政策課題—

- 47 特集の趣旨 大沢真理
48 「あるべき医療」と「ある医療」の相克
—東日本大震災と福島原発事故後の医療政策を考える— 二木 立
54 介護サービスのユニバーサル化 —その問題構成と政策— 笹谷春美
60 居住福祉法政策の課題及び実践の道筋 吉田邦彦
66 日本における社会保障制度と国民負担率 横山純一
70 パブリックヘルス(公衆衛生)の視点からみた社会システム改革
—労働雇用システムの抜本改革が喫緊の課題— 岸一金堂 玲子

学術の周辺

- 3 表紙の図
過去から未来へむけた地球/高橋桂子

編集委員会から

- 37 次号予告
69 特集テーマ予告
80 編集後記

日本学術会議の動き

- 76 幹事会報告
77 日本学術会議ニュース
77 情報プラザ

■SCJトピック

- 7 日本学術会議第162回総会を開催
- 7 東日本大震災復興支援委員会からの提言について
- 8 日本学術会議大西隆会長が「学術からの提言—今、復興の力強い歩みを—」などを内閣総理大臣に手交

特集1 9 原発災害をめぐる科学者の社会的責任 —科学と科学を超えるもの—

- 9 特集の趣旨 野家啓一
- 10 「安全の科学」の必要性 唐木英明
- 18 トランス・サイエンスの時代の学問の社会的責任 小林傳司
- 25 「科学的評価」は「正しい」か? 押川正毅
- 32 多様な立場の専門家の討議、そして市民との対話 —権威による結論の提示か、情報公開と対話か— 島菌 進
- 40 プロメテウスの火をもてあそんだ人類の「再生」への困難な道のり —哲学・人文知と科学の知との「協働・共創」の真価が今問われている 金井淑子
- 46 「実りある不一致」のために 野家啓一
- 51 科学者と一般市民のはざままで —参加者からの質問とメッセージ 丸井 浩

特集2 57 安全・安心な社会のための植物工場 —ライフ&グリーンイノベーション—

- 57 特集の趣旨 野口 伸
- 58 植物工場の萌芽、停滞、新展開 橋本 康
- 62 日本型太陽光利用型植物工場の可能性と課題 丸尾 達
- 68 植物工場の新たな展開 松村 健
- 74 防災と植物工場 村瀬治比古
- 82 情報通信技術による持続可能な次世代植物工場のあり方 野口 伸

●学術の周辺

- 3 表紙の顔 加藤尚武/野家啓一

●編集委員会から

- 17 特集テーマ予告
- 39 次号予告
- 94 編集後記

●日本学術協力財団コーナー

- 56 賛助会員募集のご案内

●日本学術会議の動き

- 90 幹事会報告
- 91 情報プラザ